

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300028		
法人名	医療法人社団 康晏堂		
事業所名	グループホーム「東海の里」	ユニット名	輝輝館
所在地	宮崎県延岡市水尻町255番地1		
自己評価作成日	平成29年9月16日	評価結果市町村受理日	平成29年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=4590300028-00&PrefCd=45&VersionCd=0

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所理念「今を喜ぶ」を具現化すべく、入居者様に安心して生活していただき、できる限りお一人お一人、それぞれのペースで過ごすことができるよう、声かけや対応を工夫している。
 ・その方に対し、良い対応支援があった時にはスタッフに周知し、統一したケアが行えるように努めている。
 ・利用者様の要望に対して、スピーチロックをしない。今すぐにはできないことに対しても説明を行い理解を得るように心がけている。
 ・身体拘束を行わない努力と工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人で、24時間医療連携体制が整っていることは、利用者や家族の安心につながっている。特に主治医は、2～3日におきにホームを訪問し常に利用者の健康状態の把握に努めている。また、重度化や終末期に向けた対応に関しても、主治医自ら家族に十分な説明を行い納得のもと方針を共有している。研修会の参加や資格取得に向けた支援も積極的に行うなど職員の育成にも力を入れていることで、職員の離職率が低く設立当初からの職員も多い。季節行事の取組も豊富で、子どものラジオ体操が敷地内で行われるなど、地域に開かれたホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今を喜ぶ」という理念に基づき利用者様お一人お一人の生活の質の向上を目指したいが、日々の忙しさからスタッフ一人一人が理念を意識したケアに取り組むまでに至っていない。	雇い入れ時の研修や定例会などで、理念の共有を図ったり、理念に沿った介護ができていないかの話し合いを行っている。敬老会などの催し物や、日頃のふとした喜びの中で理念である「今を喜ぶ」を実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の情報を得ている。また地域の小学校、他事業所との交流を図り、地域とのつながりを持っている。	自治会に入り地域の情報を得たり、春は焼肉会、夏は子ども会のラジオ体操の会場としてホームを開放をするなど、地域の小学校や、他事業所を含めた地域住民とのつながりができている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に発信できるような勉強会は行ってないが、運営推進会議にて適宜話し、地区の代表として来て頂いている区長や民生委員さんに理解して頂き、その方々を媒体として情報を発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。 民生委員の方や多職種、ご家族、利用者様が参加し、意見の交換や情報収集をし、サービスの向上に生かしている。	行事表に沿って利用者の近況報告を行い意見をもらいサービス向上につなげるよう努めている。会議内容が職員に浸透していないことから、今後は職員の参加や議事録回覧などを検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、副管理者が取り組んでいるので、詳しくは分からない。	いつでも気軽に相談できる関係ができている。最近では、徘徊者のケアについて適切なアドバイスをもらうなど連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止は定例会議の勉強会でやっているの、スタッフ全員理解している。その中でどうしても危険のある方に対しては、ご家族に説明をし、了承を得て実施。門扉の施錠が続いている。	研修を重ね身体拘束に対する理解を深める努力をしている。現在、立地条件からやむを得ず門扉の施錠を行うことがあるが、職員はできる限りの見守りケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会は定例会議にて行っているが、時間的に少ない。スタッフは虐待防止の認識を持ちながら支援を行っているが、もっと学ぶ時間が必要であるように感じる。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については一括して勉強会を行ったことは無いが、スタッフそれぞれの経験で理解に差がある。 現状として施設利用者でこの制度を使われている方はいない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に立ち会ったことが無いので、詳しくわからないが、管理者等は十分な説明を行っていると思う。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やその家族の意見や要望に関しては、その都度上司へ報告し、意見を反映するように心がけている。	家族からは、面会時に直接意見や要望を聞き、その都度管理者へ報告、意見が反映できるよう心掛けている。また、利用者からは普段の会話や様子から、意向をくみ取れるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会にて気付き、改善などの意見交換などを行っている。	職員会議を通して、意見や要望が出しやすい場作りに努めている。職員も一つの問題に対して、納得いくまで討論を重ね答えを導いている。出た意見については、業務に反映し働く意欲につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は全て正規職員で福利厚生も充実しているなど、働きやすい環境だと思う。時間外に行う会議や行事などには時間外手当が支給されている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回、順番で外部講習を受けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修などへの参加を行っている。また、ホーム行事への招待、案内を出し交流を行っている。市主催の会議にも参加し、同業者との情報交換を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境の中で、ご利用者から困ったことや不安の訴えがあれば、少しでも不安を取り除き、安心して生活ができるよう努めている。またスタッフ間でも情報の共有を行うようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望に対し、ユニット間や上司と話し合いを行い、出来る限り要望に応えられるように努め、信頼関係を築くようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にご利用者様とその家族と話し合いを行い、ケアプランを作成し、必要なサービスを提供している。また、ご利用者様の状態の変化に伴い、適切な支援に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人らしさを第一に考え、生活の中で何気ない会話や、家事等を一緒に行い、家族の一員として生活して頂いている。しかし、重度化してくると難しくなる現実がある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、共に支援して頂くよう、連絡を密にしている。イベント等の参加を促し来設していただけるように連絡を行っているが、遠方の家族等は現実的に無理な場合もある。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中で馴染みの人や場所などを思い出して頂けるようにしている。入所後は面会などが多いが、時間が経つにつれて、徐々に面会者が少なくなってきた。	利用者や家族から、生活歴やなじみの関係を聞き取り、情報をもとに行きつけの美容室や、ドライブに行くなど支援している。また、日頃から、なじみの人や場所を思い出してもらおうよう言葉かけも工夫している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等を通してご利用者同士がコミュニケーションを図れるように支援を行っている。また、新しい入居者がユニットの輪に入れるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談等があれば支援するように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向の把握に努め、家庭に近い環境で生活できるよう努めている。ただ、認知症の悪化に伴い本人の思いや希望などの把握が困難となっている。日常の会話等からヒントを得ることもある。		日頃の支援の中で、言葉や表情などから把握できるように努めている。また、意思表示が困難な方については、家族と話し合いながら日々の支援に生かせるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方等に関しては事前資料を参考に、基本的なことは入所前に把握できる状況にある。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りやバイタルチェックで、心身や体調の把握を行っている。体調に合わせ活動に参加してもらったり、調子の悪いときは居室にて休んでいただいたり、その方に合わせた過ごし方を支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様やご家族から要望や意見があった場合は担当者を含めた話し合いを行い、また他のスタッフからの意見なども参考にしながら、それを反映したプラン作成を心掛けている。		日々のケアの中から、状態の変化などを十分把握しケアプランに反映したり、家族からは、面会時などに要望や意見を聞き、本人本位の介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、業務日誌等を通し、日々の気付きや出来事をスタッフ全員で共有し、質の向上に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の要望、ニーズに応え、サービスの向上に努めている。また、ご本人様の認知症の悪化や健康面の変化があればその都度話し合い、必要なサービスを提供している。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生や、大学生、ボランティア等との交流を実施している。 他事業所との交流や散髪屋に定期的に来てもらうなど様々な協力を頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診や診察を行っている。体調不良時や異変がある場合は速やかに対応している。 必要時には専門医を受診している。	本人、家族の要望により法人の母体である医院をかかりつけ医としている。主治医の2～3日置きの訪問、状態観察は、利用者や家族の安心につながっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診時に状況の説明などを行っている。医師に情報がスムーズに伝わるよう協力を得ている。日常的には看護資格を持つ副管理者に報告を行い簡単な処置を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関しては管理者、副管理者に一任している。 退院時には、その時の情報がスタッフ全体で共有できる体制をとっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族への説明は、管理者、副管理者が行っている。 最後を迎えられる方は、当法人の医療機関と施設が連携して看取りの支援を行っている。	契約時に必ず看取りの指針の説明を行っている。状態の変化に応じて、主治医を交え話し合いを持ち家族からも同意を得ることで、方針の共有に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを備え、緊急時に対応できるように備えてはいる。全体での研修は最近に行っていない為、全員が対応できるかは不明。各個人の自己研鑽に頼っている所が大きい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。緊急連絡通報訓練や、津波に対する避難訓練等も定期的に行っているが、実際に災害が起こった場合、スタッフが同じ行動がとれるよう、もっと訓練が必要かと思われる。	近隣に住民が少ないこともあり、避難訓練に参加をしてもらうことはできていないが、隣接の他事業所との災害時の連携や地元消防団との協力体制はできている。		

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の下、人格を尊重し尊敬の心で接するように心がけているが、スタッフ間にバラつきがあるので、継続的に話し合いや勉強会が必要かと思われる。	接遇研修を行い、プライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。利用者と親しい関係の中でも、慣れ合いにならぬよう、礼儀を忘れず尊敬を持って対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にコミュニケーションを図り、自由に発言が出来る雰囲気作りに心がけている。また認知症が比較的軽度のご利用者に関しては、想いや希望を尋ね、自己決定が少しでもできるように心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに合わせ支援するように心掛けているが、日々の業務の忙しさや認知症の重度化に伴い、スタッフの人数が少ない場合はどうしてもスタッフのペースになってしまうことがある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様、その方なりのおしゃれをしていただいている。身だしなみや衣類の調整等はその都度行っている。散髪は2か月に1回程度訪問して頂いたり、なじみの店がある方はお店に行かれることもある。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関しては職員が行っている。お盆を並べたり、おしぼりを準備したり、お手伝いを頂いている。個人の好みに関してはご家族に持ってきていただいている。また行事食などで季節を感じて頂いている。	利用者の重度化に伴い、準備やかたづけは難しくなっているが、テーブル拭きなどをしてもらっている。また、行事食などで季節感を味わえる工夫にも努めている。	食事が楽しみなものになるよう、工夫をすることで、豊かな食の可能性につながるよう期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は常食やきざみ食などその人に合わせ対応している。食事摂取量のチェックを行い、その方に合った、バランスよい食事をしていただけるように心掛けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行いそれぞれに合ったペースで口腔ケアを実施している。不十分なところはスタッフが行っている。週末には洗浄剤により義歯、歯ブラシの消毒、コップは塩素系漂白剤で消毒を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便秘、尿意がある方はご本人より訴えがあった時にお連れしている。無い方に関しては、排泄記録から、ある程度の時間を決め、声掛けを実施している。嫌がられる方は無理に実施していない。		身体状況や認知症状況を観察しながら、支援方法を決めている。排せつ記録から声掛け、誘導を行うなどトイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を確認しながら、お通じの良くなる繊維質の多い食事の提供に心がけたり、内服薬にてコントロールを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ほとりの希望でのタイミングに合わせての入浴は出来ていない。しかし、週3回の入浴は行えている。拒否される方に関しては無理には行わず、個々のペースに合わせるよう心掛けている。	ゆず湯など季節感を出し入浴を楽しむ工夫がされていたり、入浴確認ボードを活用し、拒否があっても入浴漏れの無いよう工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	バイタルチェックの結果や、体調を考慮して日中でも横になって頂くことがある。また、昼夜を問わず希望に沿って休んで頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報をまとめたファイルをユニット内に設置し、確認できるようにしている。与薬時にはスタッフ2名体制で確認し、決められた1名が服薬介助を行うようにして、誤薬防止に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を生かせるように声掛けを行い、出来る範囲でスタッフと一緒に行って頂いている。 きっかけ作りや、冗談を言い合いながら楽しく行って頂ける点などに心がけている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて買い物等に行けるように心がけているが、年々回数が減ってきている。 協力的なご家族には外出の援助をお願いし、馴染みの場所へ出かけられているが、他の方は、難しい状況にある。	日常的に近隣の店舗へ買い物に行ったり、北川を展望できる敷地内を散歩することは、利用者の気分転換につながっている。また、家族の協力のもと外出の機会が持てるよう声掛け、お願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない方の財布を預かり金庫で保管している。外出時に欲しいものがあればご自身で購入して頂く。しかし、ほとんどの方は必要に応じ、ホームが立て替え、その金額を請求している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って来られている方は、自由にご家族に連絡をされている。携帯電話を持たれていない方はコードレスの子機を利用し、職員見守りの元、お話をされている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その月々や行事に見合った装飾を行い、季節感のある生活ができるように心掛けている。また、テレビの音やエアコンの温度などの管理を行い、居心地の良い空間づくりにも心掛けている。	季節を感じる飾りつけがなされており、室温や空調管理にも配慮されている。また、安全に過ごせるよう、ソファやテーブルの配置にも気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や多目的ホールに集まっておしゃべりをしたりレク活動を行っている。ホールは日当たりも良くソファもあり、くつろげるようになっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品を持ってきていただき、使ってもらっている。また身体の状態によって家具の配置を変える事によって、居心地の良い環境を作っている。希望があれば畳を利用することも出来る。	ベッドはホームで準備しているが、枕や布団の持ち込みも多い。設置してあるクローゼットは、十分な収納力があり、部屋がスッキリと保たれている。また、身体状況により家具を配置、居心地の良い環境を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行補助の為、手すりを設置し、床面はバリアフリーにしている。トイレの表記も分かりやすいようにしてあり、場所を把握できるように配慮している。全体的に明るく、視覚的にわかりやすい環境となっている。			